

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 相模テクノ	代表者	堀沢 晴成	法人・ 事業所 の特徴	・高齢者の方々に対し感謝し、尊敬と敬意を持って介護させて頂く事を理念とし、利用者に寄り添い利用者本位の支援をしている。法人は小規模ながら、居宅介護支援、訪問介護・看護から通所介護、GH、小規模多機能、サ高住等多機能なサービスがあり、利用者の状態・ニーズに対応したサービスを提供でき最後（看取り）まで対応している
事業所名	グループホーム あかつき	管理者	堀沢 晴成		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	4人	2人	3人	1人	0人	8人	0人	19人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の部会以外に第3火曜日に部会を開き、情報の共有等に努める。 モニタリングの項目に個々のニーズに対する対応と達成欄を追加して確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議時の部会以外に月1回の部会を追加したので情報の共有や個々の利用者のニーズを把握しやすくなったが、ケアマネからの支援経過等の情報が回覧されなかった。 モニタリングの項目に個々のニーズと対応と達成等を記入する欄を追加し、記入している。 利用者情報ファイルの整理が不十分でまだ閲覧しやすい状態になっていないので次の課題とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検が効果的に行われていると見られる。 スタッフ全員で良い事業所にするべく頑張っていることが分かった。 部会が月2回となったが、あらたに1回増え、計画通り実施できているのか？→(実施できている) 9項目の中には外部の人間に分かりにくいものがあるが、自己評価のまとめを見ると具体的な計画になっているように思われる。 具体的かつ明確な計画になっていると思う。 PDCAの繰り返しで少しずつ改善されているように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護・ケアマネに情報が留まっているので、支援経過の閲覧、回覧等でケアマネから情報を個人ファイルに入れて全員でその情報を把握し、共有化してゆく事が必要。 その為にも個人ファイルを整理し、閲覧しやすい状態にしてゆく。 さらに、その情報を生かし、利用者のニーズ把握を実現してゆく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> バーベキュー場やゲーム場、売店等の情報を地域に流し、事業所の利用を地域で使い易くして行く。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を地域に流せていない。 広い敷地を利用して、もっと多くの地域の方々との交流ができるよう工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設を訪問して入りづらさを感じたことはない。利用者やその家族にとっても同じ印象を持たれるのではないと思う。 広い敷地を有効活用して利用者に快適な環境を提供しているという印象を受けた。 何時訪れても、スタッフの皆さんが明るく元気でとても温かい対応をしているので家族として安心している。 良い環境の中でありがたく思っている。 事業所のことについて理解不足の為、答えられなかった。 常に環境を良くする為の努力をしていると感じている。 事業所に入った時に、どの人に声をかけたら良いか解らなかったので、困った。 	<ul style="list-style-type: none"> バーベキュー場や露天風呂等地域の方々に開放し、かつ利用できるよう情報を流して、解放された施設として使いやすくしてゆく。 独居老人(日中独居も含め)の急な発熱等で通常は通所介護に来られない時でも、独立した静養部屋を設けたので、受け入れ可能となった。地域での緊急対応にも受け入れをできる体制を作ってゆく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自社だけでなく、地域の他の事業所と共に、複数事業所研修の年間計画を立て、学習の機会を増やすことで、地位の介護事業所職員のスキルの向上を図り、地域包括ケアの一助を担って行く。 ・事業所の認知症介護指導者が中心になり、定期的に地域の認知症介護の相談会を実施する。相談会では運営推進会議の民生委員等の方々にもご協力いただき、地域の独居老人等の生活を支えられるよう協働してゆく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での複数事業所研修は計画通り実行できた。計4回実施し、毎回5～6事業所70人前後の受講者があった。 ・認知症介護の相談会は開催には至っていない。今後民生委員の方と協働し、開催できるようしたい。 ・地域の法人会より依頼され、認知症と地域包括ケアという講演を行い、地域の方々に認知症への理解を促していった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談場所について、一部の人は気軽に訪問して相談できるかもしれないが、イベントの参加状況などから推測して、やはり抵抗感を持つ人は居るように思われる。 ・相談場所については相談することがないので分からない。 ・気軽にスタッフの人と相談でき親のことがよく解る。 ・常に気持ちよく挨拶され、地域においてもきっと人気ある施設と思う。 ・職員とかかわりが少ないので答えられなかった。 ・地域に密着（溶け込む）することが、利用者やその家族の為にも良いと思う。その考えに基づけば、これまで行われてきた開放型イベントや地域との協力的な事業の推進を続けることは大事なことと思われる。 ・地域のお年寄りが施設を訪問することは抵抗があっても地域のお年寄りの集まりに施設の方が出席して、健康についての話をする（指導助言、諸検査等）などは、やろうとすれば出来るのではないかと思う。 ・勉強会、研修等もあり、家族にとりして沢山の支えとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方と協働し、地域の独居老人等の生活を支えられるよう、認知症介護の相談会等を実施する。 ・引き続き地域の事業所とともに複数事業所研修を継続する。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能型居宅介護事業を含む自社の各種事業（互助ハウス等）と、地域の方々の協働で、高齢者になっても支え合いながら生活して頂ける環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互助ハウスの運用はできているが、地域の方々との協働の体制ができていない。 ・社協で取組のオレンジカフェの運営に協力し、かつ利用者も参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者以外の心配なご近所の方については、第三者からはよく分からない。特に互助ハウスの入居者でない一般区民の場合では、個人情報保護の観点から情報交換が難しく、その内容を確認することは一層難しい。 ・現状全く分かりません。 ・いろいろなイベントに参加し、楽しめていると思う。 ・一般区民に対して、施設の支援を求めるか否かという希望を確認し、それを施設に伝えるという仕組みを整える必要があると思われるが、その進め方については、やはり資格を持った人が中に入り慎重に行わなければならない。今後の検討課題である。 ・家族として全てを安心して、お任せしているが、 	<ul style="list-style-type: none"> ・互助ハウスのサニーヒルズが未使用なので、その施設を利用し、定期的に健康チェックや介護相談会を開催する。

			<p>出来るだけ行事等に参加したいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流が活発で良いと思う。 ・民生委員として一人暮らしの高齢者宅を訪問している。1回目より2回目といろいろ話をしているようになる。お互い人間関係を深めてゆくことがとても大事だと思っている。これからも定期的に訪問し絆を深めてゆきたい。自分の方が高齢者から元気を貰って帰ってくることもある。 	
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の独居老人の支援として、運営推進会議のメンバーの協力を得て他の事業とも連携し、必要な事に取り組んで行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議のメンバーとの連携、協力体制の構築中で独居老人の支援にまで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（区）の計画に上がった課題については、運営推進会議等で意見交換をし、施設側で対応している。しかし、地域の「心配の方」については、区長からの情報提供はなされていない。 ・事業所内のことなので分からない。 ・毎回、内容も分かりやすく取組についても理解し、感謝している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地域の独居老人の支援ができるよう、地域（運営推進会議のメンバー中心）との連携を強化してゆく。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・東京消防庁小規模福祉施設防災実務講習会への参加を2名増やす(現在参加した者2名)。 ・東京消防庁小規模福祉施設防災実務講習会での知識を生かし、いざと言うときの行動が職員全員で徹底できるよう訓練しておく。 ・地域の防災訓練に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自事業所の防災訓練で地域の方との連携ができたが、地域の防災訓練に参加できなかった。 ・今年度は東京消防庁小規模福祉施設防災実務講習会への参加できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画の詳細は分からないけれども、その取組は外部の者の目にも分かる。特に地域と一体(一緒)の防災訓練は充実してゆくと良いと思われる。 ・防災計画については、関わっていないので分かりません。 ・個人的に参加したことはないが、安心している。 ・地域と合同(一緒)の訓練を続けていくこと。 ・地域（区）の防災計画と施設の計画の擦り合わせなどをして、それぞれの役割や動き方を知っておくことは無駄にならないと思う。 ・事業所の防災計画や災害対策について理解したいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京消防庁小規模福祉施設防災実務講習会を地域や他の事業所にも呼びかけて、当事業所で開催し、職員全員でいざという時の行動ができるよう訓練する。 ・地域の防災訓練に参加する。

